

場所 熊本県下益城郡美里町

面積 0.88ha

活動目的 土（自然、水）といのち（すべての生き物）とくらしを協同で守り、未来に受け渡していくことを目的とする。



サイト概要 中山間地域農業の再生をめざして、2012年から、湿地水田の耕作放棄地（過去約10年間）を再生活動の拠点の場とし、「みさとの里うしろだに」を造成した。この運営の基本方針は、「土（自然）と、いのちとくらし」を協同で守ることとし、以下の事に取り組んでいる。1. 耕作放棄地再生後の維持管理。2. 無農薬、無肥料の自然栽培、草、落葉など資源の活用。3. 都市との交流（命の癒やしの空間の創造、生態系の命を学ぶ場の創造、体験農園、生き物観察=ビオトープ、命をつむぐ”歴史の記録・創造）

土地利用の 変遷

2000年頃までは谷間の水田、畑として利用されていたが、その後、耕作放棄地となり、2011年には雑草が繁茂し低木が生え、竹林の山林への広がりが増進し、里山の放置化が進んだ。2012年に協同農園、小市野地区、ボランティア等の協同作業によって再生整備が行われ、一部の放置水田はビオトープ整備により水生生物の生態系が見られるようになり、竹林の整備を行っている。稲作や果樹栽培の体験を通じて学校や地域の子供達の自然体験の場となっている。また、地域の大人達にとっては活動すること自体が癒やしの場となっている。

サイト周辺の 環境

「みさとの里うしろだに」の周辺は雑木林、竹林である。水源が3か所あり湧水が豊富に湧き出ているものの、谷間にあるため日照時間が少なく作物栽培では品種の選定が必要である。しかし谷間で隔離されているので、周辺からの農薬等の流出の影響はほとんどない。

アピール ポイント

谷間で周辺の森に隔離された場所を活かし、以下の活動を行っている。1. 自然環境と命を守る方針に基づき、無農薬、無肥料、自然栽培を行っている。2. 子どもたち、大学生の有機農業体験交流を開催している。3. ビオトープを造成して、多様な生物の生態系の維持と自然とふれ合う機会が得られるよう、生き物調査が出来るようにしている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトには止水域として、水田のほか草地内に水深の違う2つのため池が存在し、その周辺には低茎・高茎草地、湿地及び樹林地が分布する。このような環境は止水産卵性の両生類にとって好適な生息環境であり、それを反映して7種もの両生類が確認されている。さらに、これらの両生類を中心に、餌生物となる昆虫類をはじめ捕食者のヘビ類や中型哺乳類、サギ類が観察され豊かな生態系が成立している。

【主な植生】

申請区域内には竹林、雑木林、水田、湿性草地、エノコログサ等の低茎草地、ススキ等の高茎草地、畑地（ミョウガ、コンニャク等）、栗畑、果樹園（モモ、ユズ、ビワ、ヤマモモ、キンカン等）が分布している。

【確認された主な動植物など】

申請区域全体では植物63種、動物79種が確認されており、動物の内訳は哺乳類10種、鳥類8種、爬虫類6種、両生類7種、昆虫類44種、貝類3種である。主な種を以下に示す。
植物：ミゾソバ (*Persicaria thunbergii* var. *thunbergii*)、タネツケバナ

(*Cardamine occulta*)

哺乳類：キツネ (*Vulpes vulpes*)、テン (*Martes melampus*)

鳥類：シジュウカラ (*Parus minor*)、ウグイス (*Cettia diphone*)

爬虫類：アオダイショウ (*Elaphe climacophora*)、ヒバカリ (*Hebius vibakari vibakari*)、

両生類：ニホンアマガエル (*Dryophytes japonicus*)、ツチガエル (*Glandirana rugosa*)、ヌマガエル (*Fejervarya kawamurai*)

昆虫類：ギンヤンマ (*Anax parthenope julius*)、ツマグロヒョウモン (*Argyreus hyperbius hyperbius*)

貝類：ヤマタニシ (*Cyclophorus herklotsi*)



写真の説明：ため池の様子



写真の説明：ニホンカナヘビ（成体）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトの中心部に自然栽培（無農薬・無肥料）の水田があり、安全な米の生産・出荷をおこなっている。また、畑地や果樹園においても農薬無使用の作物を生産・出荷している。さらに、小学生の社会科見学や大学生のゼミの一環として、田植え、草取り、稲刈り等の農業体験を提供している。

【主な植生】

申請区域内には竹林、雑木林、水田、湿性草地、エノコログサ等の低茎草地、ススキ等の高茎草地、畑地（ミョウガ、コンニャク等）、栗畑、果樹園（モモ、ユズ、ビワ、ヤマモモ、キンカン等）が分布している。

【確認された主な動植物など】

申請区域全体では植物63種、動物79種が確認されており、動物の内訳は哺乳類10種、鳥類8種、爬虫類6種、両生類7種、昆虫類44種、貝類3種である。主な種を以下に示す。

植物：ゲンノショウコ (*Geranium thunbergii*)、キカラスウリ (*Trichosanthes kirilowii* var. *japonica*)

哺乳類：タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*)、ニホンザル (*Macaca fuscata*)

鳥類：ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)、ホオジロ (*Emberiza cioides*)

爬虫類：シマヘビ (*Elaphe quadrivirgata*)、ニホンマムシ (*Gloydius blomhoffii*)

両生類：ニホンアマガエル (*Dryophytes japonicus*)

昆虫類：シオカラトンボ (*Orthetrum albistylum speciosum*)、ツクツクボウシ (*Meimuna opalifera*)

貝類：ヤマタニシ (*Cyclophorus herklotsi*)



写真の説明：田植え体験の様子



写真の説明：稲刈り体験の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトには水の枯れない安定した止水域である溜池がある。しかも水深があまり深くないため両生類やトンボ等の昆虫類にとって好適な産卵環境にある。さらに周辺には草地や雑木林があり、変態後の生息環境も充実している。こうした里地里山の環境に特徴的な希少な動植物が確認されている。

【確認された希少種】

本サイトでは主に水田及びため池と、その周辺の草地において環境省レッドリストや熊本県レッドデータブックに掲載された希少種として、植物1種、哺乳類1種、鳥類1種、両生類3種、昆虫類2種、貝類1種が確認されている。



写真の説明：ため池及び周辺の環境



写真の説明：カヤネズミの巣

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><活動目的> 土（自然、水）といのち（すべての生き物）とくらしを協同で守り、未来に受け渡していくことを目的とする。</p> <p><活動内容> 申請区域を①畑地・果樹ゾーン、②水田ゾーン、③ビオトープゾーン、④竹林・雑木林ゾーン、⑤畦・法面・道路ゾーンに分けて、上述の価値(3), (4), (6)の保全に貢献するよう以下の保全・利用活動をおこなう。</p> <p>①畑地・果樹ゾーン、②水田ゾーン：今後も毎年農業を継続する。昆虫やカヤネズミなどに配慮してこれまでと同じく無農薬、無肥料、自然栽培による農業を実施していくとともに、農業体験の場として活用する（価値（3）、（4）、（6））。</p> <p>③ビオトープゾーン：このゾーンは希少な生物が生息・繁殖している場所、生物の観察会をおこなう場所として、草刈りや水路整備を定期的におこなう（価値（3）、（4）、（6））。</p> <p>④竹林・雑木林ゾーン、⑤畔・法面・道路ゾーン：サイトに生息する生物の生活場所の一部として機能している場所、観察会をおこなう場所として、日差しや風の通りを考慮しながら、間伐や草刈りなどの管理をおこなう（価値（3）、（4））。</p> <p><実施体制、計画の点検、見直し> みさと土といのち協同農園が中心となって環境保全、利用活動、維持管理作業を行う。また、必要に応じて外部団体の協力を得ながら行う。本活動計画は2年に1回点検するとともに、5年に1回程度改定。</p>	<p>【モニタリング対象】 哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・植物を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 基本的には申請サイト全域とするが、耕作中の畑地・水田は除く。なお、非耕作時期は①畑地・果樹ゾーンと②水田ゾーンもモニタリングを実施する。</p> <p>【モニタリング手法】 哺乳類・爬虫類・両生類：目視・捕獲のほか、痕跡も確認対象とする 昆虫類・鳥類：目視・捕獲のほか、鳥類は鳴き声でも確認する。 植物：直接観察で確認する。</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 ・基本的には2年に1度の頻度で実施する。 ・モニタリング実施年の1月、3月、6月、10月に実施。</p> <p>【モニタリング実施体制】 以下の外部協力者に依頼する。 ・哺乳類、爬虫類、両生類：坂本真理子氏（くまもと里と山研究所 代表） ・昆虫類、鳥類、植物：佐野間英之氏（江津湖動植物観察会 会員） ・植物：大住和尙氏（水と緑ワーキンググループ 代表）</p>